

学校教育課だより

# かけはし

## 幼稚園の公開保育について

教育部長 杉本 哲哉

師走の慌ただしさの中、いよいよ年末の気分となってきました。イルミネーションはあんなにきれいなのに、今年中にやらなければならぬいろいろなことを思うと落ち込みます。

よく言われる話ですが、年齢と共に一年が徐々に短くなってきたことが実感されます。聞いたことがあるかもしれませんが、これは大人になるにつれ、「嫌なこと」、「つらいこと」が、「うれしいこと」、「楽しいこと」より多くなるため、神様が時間を短く感じられるようにしてくれているというものです。

ありませぬので、ピントがずれていることはご容赦ください。

学校教育課だより  
「かけはし」  
【第 8 号】  
平成 28 年  
12 月 19 日発行  
御殿場市教育委員会  
学校教育課

一方、小学生のころを思い出すと、一日をとても長く感じていた気がします。学校にいる時間ばかりではありません。帰宅後、近所の友達と日が落ちるまで遊んでいました。この時間はとても楽しいものでした。これから言えることは、大人とは逆に子どものときは、「うれしいこと」、「楽しいこと」が長く感じてもらえるということですね。

さて、ここから本題の「幼稚園の公開保育」について、感じたことを書いてみたいと思います。先に言い訳をしておきますが、私は教育者では

よる「慣れ」だけでは、とても園児のエネルギーをコントロールしていくことはできないと思います。そこで、必要なもの、それは保育力という「Force」です。その力がどんなものであるか、私にはわかりません。ただ、その力は絶対に存在しているものであり、経験や研修、努力を通じて、先生に備わっていくものだと思えます。

近年、採用された先生のポテンシャルは非常に高いレベルにあります。幸いなことに、当市における経験の少ない若い先生を指導する体制は、充実している方だと自負しています。幼稚園指導員の勝又立雄先生が毎日熱心に各園を回り、園児の様子や先生の保育の状況を見ています。

国の施策もあり、幼稚園への入園希望者は減少傾向にあるというところは現実です。しかし、幼稚園の教育を望んでいる保護者がいなくなるわけではありません。そのためにも、まずは幼稚園教諭としての技量の習得、幼稚園の教育の充実に向け、焦ることなく、着実に進んでください。では、  
“May the force with you.”

### 市指定研究 御殿場南小学校

#### 学力向上・授業改善

#### 研究発表会

十一月二十二日に御殿場南小学校での平成二十七・二十八年度の二年間にわたる「学力向上・授業改善」の研究発表会が開催されました。御殿場南小学校では、「思いや考えを伝え合い、進んで学びを深める子の育成」を研究のテーマに掲げ、チーム南小が一丸となって、研究に取り組みました。

御殿場南小学校では、研究の窓口教科を国語に設定し、静岡大学教授の坂口京子先生から指導・助言をいただきながら研究を推進してきました。研究発表会当日の講演では

「資質・能力を育成する授業改善」をテーマに言語能力の育成に重点をおいて、お話しただきました。授業の中で「感受・表現」「理解・伝達」「解釈・説明」「評価・論述」「討論・協同」等、子どもたちの内言の整理や表出ができる学習環境を整えることを意識していくことが大切であること、国語に限らず授業づく

りにおいては、学習者研究(子ども理解)、教材研究が重要であることをお話しいただきました。

公開授業では、各学年から一クラス、国語の授業が公開されました。ここでは、一年三組、村上智洋先生の「まめ」の授業を紹介いたします。順序を表す言葉を使って、植物が育つ順序を説明することを目標とする授業でした。はじめに、そして、やがて、しばらくすると、そのあと、さいごになどの時間の順序を表す言葉を写真や文とを組み合わせながら、誰が聞いてもわかる説明となるようにみんなで考えていきました。

T:「はじめに」はここでいいかな。

C:「はじめに」は、最初についてことだからここでいいと思う。

T:みんなあさがおのとき、どうだった。

C:たねを植えるとはじめに芽がでてきたから、これでいいと思う。

先生が子どもたちの生活経験(生活科)と結びつけて考える手立てを講じたために、子どもたちは「分かった」「これでいいんだ」という学びを



実感することができました。このときの子どもの満足そうな笑顔が、今でも強く印象に残っています。

子どもたちが考えたいと思う課題の提示、子どもたちが意見を練り合う伝え合い、子どもたちが学びの実感を積み重ねられる振り返りの三つの授業改善の視点を基に組み組まれた御殿場南小学校の研究の成果は、公開授業で課題の追究に主体的に取り組む子どもたちの姿に確かに見られました。

学校の学力向上に向けた授業改善への取組に終わりはありません。教師である以上、これまでも、そしてこれからも常に追い求めていかなければならないものだと思います。御殿場南小学校の先生方には二年に渡る研究に真摯に取

り組んでいただきありがとうございます。本研究の成果を市内全体で共有し、子どもたちの学力向上につなげていきたいと思えます。

【指導主事 小越隆則】

### 教師力向上講座「架け橋」

第三回は、富士岡中学校の須田敏弘先生の講義・演習でした。「道徳の授業が好き」という子どもが増えていくために」というテーマで、事前にアンケート調査を行い、参加者の悩みに沿った内容を展開してくださいました。以下、参加者の感想です。

・「ないた赤おに」の模擬授業では、子ども側の視点で真剣に考えることができました。発問や授業の流れが素晴らしく、引き込まれる面白さを感じました。板書や席配置など、勉強になることばかりでした。私も子どもの頭の中に汗をかかせる授業がしたいです。

・小学校二年生の資料で大人がこんなにも考えてしまうのは、発問があったからこそだと思います。何を考えさせたのかを吟味したいです。

・道徳に苦手意識があり、授業を考えるのが嫌になってし

まう時もありましたが、次の道徳の授業を考えるのが楽しくになりました。

・つい自分の友達の姿が頭に浮かんできました。用意してくださった資料からも温かさを感じ、道徳の授業のテクニックだけでなく、生徒を包む先生の温かさも勉強させていただきました。

第四回は、原里小学校の堀水直子先生による「生活科・総合的な学習の時間の授業づくり」の講座でした。今、求められている力と生活科と総合的な学習の時間のつながり、総合的な学習の時間で子どもが育ち、教師が変わり、地域に広がっていったことなどを、自らの手で教材を開発してこられた堀水先生の豊富な実践例を基に紹介していただきました。



した。以下、参加者の感想です。

・総合的な学習は、とても夢があつてわくわくする時間だと思えました。私たち教員が、まず地域を知り、様々なことに興味を持っていなくてはならないと感じました。

・私が小学校三年生の時「公園を作ろう」という総合的な授業を受けました。演習のフラワータウンのように自分たちで町に必要なものを考え、模型を作り、町役場の方にプレゼンをしました。実現しなかったものの、とてもわくわくし一生懸命授業に取り組みました。先生の話聞いて、同じような気持ちの子どもたちを作るのは私自身だと気付かされました。

子どもの立場で『青おには本当の友達と言えるか』を真剣に考えたり、学校を花いっぱいにするアイデアを付箋に書き出し、思考ツールを用いて、考えを整理したりする演習などを通して、「主体的・対話的で深い学び」へのヒントを得られているのではないのでしょうか。夜間の研修ですが、頭をフル回転させて参加してくださいっています。

【指導主事 秋岡智子】